

CONTENTS

- | | | | |
|-----|-------------------------------|---|----------------------------|
| 1 | ●令和2年度(2020年度)立正大学FD活動を振り返って | 7 | ●令和2年度(2020年度)新入生アンケート結果報告 |
| 2~5 | ●令和元年度(2019年度)ベスト・クラス賞受賞科目紹介 | 8 | ●令和2年度(2020年度)FD活動報告 |
| 6 | ●令和元年度(2019年度)4年生満足度アンケート結果報告 | | |

令和2年度(2020年度)立正大学FD活動を振り返って

全学教育推進センター長 吉岡 雅光

例年3月に発行しておりましたニュースレターを遅ればせながら発行させていただきます。諸般の事情により発行の遅れましたことお詫び申し上げます。

昨年度より担当部署が学長室総合経営企画課から全学教育推進センターに移行した関係で担当副学長も変更になっておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

周知のとおりFD活動は教員が授業内容・方法を改善し、向上させるための取り組みです。昨年度は、コロナ禍の中であって、日頃のこうしたFD活動が重要であることを再認識させられた年でした。前回のニュースレターではアクティブラーニングについて中心に取り上げられていましたが、立正大学では新型コロナ感染のパンデミックが起る直前に動画教材利用の提案がなされていたことに、偶然とはいえ授業方法に関する工夫の重要性を再認識させられました。今後とも時代要請の変化に加えてリスク対応という点においてもFD活動を発展させてゆく必要性を感じさせられました。

さて、令和2度のFD活動としましては、まず、新任教員向け「自己点検・評価入門研修会」を2020年8月24日に実施いたしました。自己点検・評価、認証評価に加え内部質保証に関する基礎的な内容の研修をオンラインで実施し、全体で33名に参加していただきました。

また、全学的なFD活動としては、年度末の緊急事態宣言中となってしまったのですが、2021年3月4日に2019・2020年度のベスト・クラス賞受賞

者による発表会をオンラインで開催させていただきました。2019年度受賞者の経営学部近藤大輔教授には「学生100人超と真摯に向き合うやる気と理解力を高める授業」という演題で、また、2020年度受賞者の心理学部佐藤秀行准教授には「学生からの評価が高い資料配付型授業の工夫」という演題でお話いただきました。いずれも時宜を得たご発表で、101名の教職員の方々がリアルタイムで、またその他の人はオンデマンドで参加し、コロナ禍の中、およびコロナ後の授業方法として多くのヒントを頂戴いたしました。

その他のFD活動としましては、時間が前後しますが2020年12月9日に障害学生支援室主催のFD研修会をオンラインで実施いたしました。立正大学障害学生支援室からは「オンライン授業下における合理的配慮について」お話いただくとともに、ゲストとして富山大学西村優紀准教授をお迎えして「大学における移行支援」という演題でお話をお聞きしました。事前予約制の開催でしたが23名の参加者を見ることができました。

さらに、例年のこととなりですが、新入生アンケート(5月)、授業改善アンケート(1期・2期)、4年生満足度アンケートを実施させていただきました。授業アンケートにはそれぞれご担当の先生方から学生向けのレスポンスを頂戴いたしました。結果は冊子として配布させていただいております。

コロナ禍の中での授業という困難な状況が続いておりますが、これからも先生方の創意工夫とご協力によってFD活動を展開し、教育を推進してまいりたいと思います。

令和元年度(2019年度) ベスト・クラス賞 受賞科目案内 教員インタビュー



左から：吉川学長、伊藤先生、近藤先生、
青木先生、宮川副学長



伊藤 真悟 先生 (文学部)

受賞科目名：「実践英語1A」
(2019年度第1期授業科目)

—授業の目的や概要、授業の流れについてお聞 かせください—

この授業は「使える英語」の習得を目指しています。まずは英語の本質について理解を深めていきます。ぐらついた土台の上にくらレンガを積み上げても最後は崩れてしまいますよね。具体的に言いますと、なぜ英語の5文型はS+Vから始まるのかを考えることによって、英語の本質にせまることができます。次には実際に使われている英単語を掘り下げていきます。特に基本動詞と前置詞や副詞にフォーカスをあてます。それぞれの単語が持つ本来の意味を解説して活用方法を学んでいきます。その上で実践的な英会話を学習したり使える自己紹介文を作成したりします。

—授業構成のポイントをお聞かせください—

この授業では学生の「なぜこれだけ英語を勉強しても使えないのか」という疑問にこたえています。実は私も学生時代は英語が苦手だったんです。ですから学生の皆さんがつまずく部分はよくわかっているつもりです。「名選手、名監督にあらず」と言いますよね。なるべく学生の目線に立ち、そのつまずく部分をできるだけいねいに解説するよう心掛けています。

〈概要〉

2019年度授業改善アンケート結果より、ベスト・クラス賞を受賞した4名の先生に、授業設計のポイントや工夫をお伺いしました。

—その中で特に工夫したことはございますでしょうか—

授業では書き込み式のプリントを配布します。プリントには図解やイラストを入れてビジュアルで理解できるように工夫しています。私が独自のプリントを作りはじめたのは10年ほど前になります。当時聴覚障がいのある学生がこの授業を受講していましたが、私の板書だけではその学生に授業内容を伝えることができませんでした。それ以降、毎年プリントを更新して汎用性の高い授業作りをめざすようになりました。

また、学生へのフィードバックもできるだけきめ細やかにを行っています。学生が理解できなかったことや難しかった点、新しい気づきなどについて出席カードやCラーニングなどを利用してアンケートを取っています。

質問が少ないときには、事前に質問者を指名して質問コーナーをもうけることもあります。質問を積極的に考えることで自分はどこが理解できていないのかが明確になっていきます。やはり質問は大切な対話のツールでもありますので質問時間を有効に活用し授業の活性化につなげています。

また、講義の合間には自分がこれまで社会人として英語と携わってきたエピソードや留学時代の話など、学生の皆さんが今後の大学生活や進路選びの参考になる話などもできるだけ紹介するようにしています。

—最後に授業を実施する上での今後の課題やこれからの展望についてお願いします—

今後の課題はオンライン対応ですね。現在、オンライン授業のときはオンデマンドと同時双方向の両方を活用しています。授業の冒頭はTeamsを通じて学生との対話を中心に進めていきます。質問はできるだけ同時双方向で行うようにしています。後半はパワーポイントを使ったオンデマンドによる授業が中心です。なるべくページ数を増やして学生が動画感覚で観ることができるよう工夫をしています。特にオンデマンドは、障がいのある学生や留学生へのサポートにもなるのではないかと考えています。今後のことですが、対面授業においてもオンラインツールを適切に活用できないかを検討しています。

—ありがとうございました—



近藤 大輔 先生 (経営学部 准教授)

受賞科目名:「簿記原理 I C」

(2019年度第1期授業科目)

—授業の概要、目的についてお聞かせください—

この授業は経営学部の1年生を対象とした必修科目で、約330人の新入生を110人程度の3クラスに分割して実施している授業の内の1クラスです。簿記の3級や2級の取得についてはキャリアセンターで実施している課外講座がありますので、これは初心者向けの授業になります。経営学部には「マーケティング」「経営戦略」「情報システム」「会計」の4つの学修領域がありますが、会計はその中で最も人気のない領域なんです。それなので、授業自体が楽しくなかったら学生は誰も勉強してくれません。そのためこの授業は「楽しい授業」にすることを目的としています。

—授業構成のポイントや工夫していることはございますでしょうか—

皆さんはダイエットのときに体重の計測をしなかったら不安になりますよね。自分の目で定性的に身体を見るだけでなく、定量的にも見ていけば間違いはないと思いませんか？ この授業では毎回ミニテストをおこなう学生の成長を定量的に見ていきます。これは主に内発的な動機づけが目的ですので成績には反映をさせないで、学生自身に見てもらって自身の成長のために使ってもらいます。その結果学生からは「まずやり方を教えてもらう、そして、自分でやってみる、そして、解答を合わせるというサイクルを色々な問題を通してやることによって、効率よく学習できる」とのコメントをもらいました。

また、もしダイエットで1kg太ってしまったときやトレーナーに「太り過ぎですね」と言われたらヤル気がなくなってしまうですよね。なのでミニテストの成績を使って松岡修造さんのようにとにかく褒めるようにしています。誰でもポジティブで元気をもらえるトレーナーがいたらヤル気は2倍になりますよね。その結果「いい意味で教員と生徒の距離が近く、非常に質問しやすい環境が整っている」とのコメントをもらいました。

確か2018年のことですが、サッカーワールドカップの予選突破が決まったときに帰りのチャーター機の中で日本代表の本田選手がリップスライムの「楽園ベイバー」を熱唱する様子がインスタグラムにアップされていました。普段はストイックなイメージがある本田選手ですが、もしオフのときも同じようにストイックだったら一緒にいる人は疲れますよね。適度なオンとオフの切り替えが周囲の人間のやる気を引き出すのだと思います。ですからこの授業では好きな映画やアニメの話、就活の話などで学生の気持ちをほぐしてから学習に入るようにしています。その結果「ただずっと授業を進めるのではなく、先生の雑談があるので、自分がリラックスできるし、いろんなことを知れるので聞いていておもしろかった」「軽い雑談も含め授業が進んだので堅苦しくなく楽しく授業を受けることができた」とのコメントをもらいました。

—今後の課題や将来の展望についてはいかがでしょう—

そうですね…… 今後もベストクラス賞を取り続けます！

今回は「この授業で新しい知識や考え方が得られましたか」というアンケート項目での点数が高いことが受賞につながったとかがっています。実は2019年度に1年生だったときにこの授業を受けた2名の学生が、3年生になったこの2021年5月におこなわれた公認会計士短答式試験に合格をしました。在学中での合格は立正大学では初めてのことです。中には「アンケートの点数が高くても学生の実力がついていとは言えない」との意見もありますが「楽しい授業」をしていけば学生の意欲も上がり、資格試験や社会に出たときの力も

18:20 9月1日(水) 63%

基本例題 03 解説・解説262ページ

次の1年間の取引を、1. 日付順に仕訳し、2. 勘定記入し、3. 残高試算表を作成しなさい。なお、仕訳と勘定記入に用いる勘定科目は次の中から選ぶこと (会計期間: ×1年4月1日～×2年3月31日)。

現金 普通預金 借入金 資本金 売上 仕入

4月1日、株式会社設立にあたり、株式を2,000円で発行し、株主より銀行の普通預金口座に入金を受けた。
 ○7月1日、銀行より現金1,500円を振り込んだ。
 □10月1日、商品1,000円を仕入れ、代金は現金で支払った。
 △2月1日、10月1日に仕入れた商品をすべて1,500円で販売し、代金は現金で受け取った。
 ●3月1日、借入金のうち500円を現金にて返済した。

1. 仕訳

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
4/1	普通預金	2,000	資本金	2,000
7/1	現金	1,500	借入金	1,500
10/1	仕入	1,000	現金	1,000
2/1	現金	1,500	売上	1,500
3/1	借入金	500	現金	500

2. 勘定記入

現金(資産) 借入金(負債)

借入金 1,500 仕入 1,000 現金 500 現金 1,500
 売上 1,500 借入金 500
 3,000 3,000

普通預金(資産) 資本金(資本)

普通預金 2,000 普通預金 2,000

仕入(費用) 売上(収益)

現金 1,000 現金 1,500

22

ついてきます。つまり「楽しい授業」はアンケートの点数も学生の実力も上げることができるということです。今後は私がベストクラス賞を取り続けることで「楽しい授業」の有用性を理解していただく機会が増え、それによってもっと学生がワクワクするような大学になっていくことを願っています。

——ありがとうございました——



栗山 宣夫 先生

(社会福祉学部 非常勤講師)

受賞科目名：「病弱教育」
(2019年度第2期授業科目)

——「病弱教育」とは聞きなれない言葉ですが、この授業の目的や概要をお聞かせください——

特別支援教育の中に「病弱」という領域があります。これは院内学級などのような入院中の子どもの教育についてであったり、通常の学級の中にいる病気をかかえながら生活している子どもへの教育についての理解を深めることを目的とした授業です。院内学級での具体的な授業例を解説しながら、「この時は、こんな反応をした子どもがいた」「もし〇〇先生（学生の名前）だったら、どう対応する？」と対話的な方法も取り入れながら授業を進めました。学生からいくつかの意見を聞いて、その対応のよさ、意見どうしの矛盾やどちらを優先させるべきかなどについて、学生の発言を促した後に、「当時、担任だった栗山はこうしました……」という流れにすることが多くありました。

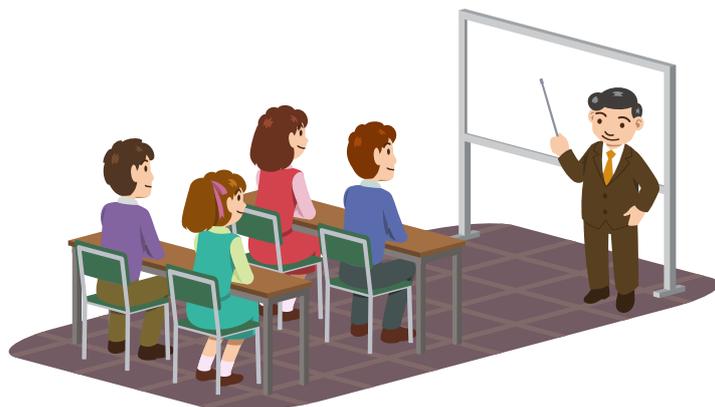
——授業構成のポイントや工夫した点についてはいかがでしょうか——

ポイントとしては、はじめに「病気や治療の都合により授業時数が少なくなりがちなお子さんにとってどのような授業実践が有効か」ということについて、具体例を交えながら学んでいくような授業構成にしました。おそらく学生自身も小中高校時代に多少なりとも授業進度が遅れた経験をしたことがあると思うんですよね。なのでまず学生自身がそれを他人事ではなく自分の事として実感を持って考えられることが、その後の授業に臨む姿勢につながるのではないかと考えました。それでこのようなテーマを早い時期に組み込みました。特に普通の積み重ねが重要と言われている算数や数学で遅れてしまった場合の子どもの困り感や院内学級での工夫について講義をしたときには、「なるほど!」という表情を何人もの学生から見ることができました。そして各教科ごとの授業実践や課外での支援の具体例とポイントをあげることによって、それを具体から抽象、理論へと繋げるように心掛けました。中盤は病気の種別や治療の状況に応じた配慮事項について学んでいき、後半には病弱教育の制度の現状とその課題について学んでいくという構成にしました。

——授業を実施する上での今後の課題や将来の展望がございましたらお聞かせください——

先ほどお話ししました、授業前半におこなっている「有効な授業実践を具体例を交え学ぶ」という部分は、決して院内学級だけで通じる内容ではなくて、多様な子どもがいる通常学級での授業実践においても通じる内容なのです。私はこれからも多くの学生が通常の小学校に就職することも視野に入れながら授業に臨みたいと考えています。この特別支援教育が「特別なこと」「他人事」ではなく、「自分の事」として考えることのできる学生の育成に努めていきたいと思っています。

——ありがとうございました——





青木 和昭 先生

(地球環境科学部環境システム学科 講師)
(受賞時は助教)

受賞科目名：「環境情報処理実習」
(2019年度第2期授業科目)

——授業の概要や目的、授業の流れについてお聞かせください——

この「環境情報処理実習」は2年生以上を対象とした授業で、さまざまなデータの統計処理や分析手法について理解し、さらにコンピュータを用いた演習を通じてデータ分析手法を活用できるようになることを目的としています。データ処理は全てMicrosoft Excelを用いて実施しています。

授業は2コマ連続で実施される実習形式で、最初の1コマでは手法の説明やサンプルデータを用いた例題を学生と一緒に進めていき、2コマ目では環境科学に関係するデータを用いた課題に取り組みます。これは実際のデータに近いものを扱うことによって、今後のゼミや卒業研究で応用することができるようになることも目的としています。

——授業構成のポイントや工夫した点についてはいかがですか——

授業はPowerPointを用いて進めていきます。基本的には1回の授業で1つの分析手法を取り扱っていきます。授業の最初の部分で復習として前回授業のポイントをおさらいして課題の解説をPowerPointとExcelを併用しながら実施していき、その後は取り扱う手法を解説するのですが、その際必ず「どういったデータに適用可能な手法か」「どのようなデータに対して有効な分析手法か」を説明するようにしています。それは扱うデータの種類や性質によって適用する手法を適切に検討する必要がある、ということをしかりと学生に理解してもらうためです。

そして原理を理解したら、次はサンプルデータを用いて実際にExcelでデータ分析を行っていきます。まずは小さなデータで分析の流れをしかりと理解してから、課題となる少し大規模なデータ処理にチャレンジしていきます。課題に関しては複数の課題を用意していますので、学生は自分の理解度に応じて課題を進めてもらうようにしています。課題を提出した後の授業でしかりと解説を行った点が学生からの評価が高く、「様々な課題をこなしていくことでエクセルを扱う能力を高めることができ、自身の成長につながる」「課

題の振り返りで自分が間違えたところを確認できた」「毎回課題を提出して、点数も表記され、解答も出されるのでとても良いと思った」といったコメントをいただいています。使用した授業資料はネットワーク上で共有をしていて、学生はいつでも参照が可能になっています。

——授業を実施する上での今後の課題や将来の展望についてお聞かせください——

この「環境情報処理実習」は、Excelでデータを統計的に分析や処理をする手法を学習する授業ですので、Excelでの処理が可能な範囲での分析に留まっています。ですので基礎的な分析手法を中心とした学修内容になっています。今後実際に卒業研究などに応用していくには不十分な部分もありますので、より発展的なデータ処理が可能なRやSPSSなどプログラミングによるデータ処理などに繋げていくための方法が課題となっているかと思っています。これからの卒業研究において学生自身が取得したデータを分析する場合は、授業で学修した内容も含めて適切な手法やツールが選択できるように指導していくことが重要であると考えています。

——ありがとうございました——



令和元年度（2019年度）4年生満足度アンケート結果報告

2019年度4年生満足度アンケートの実施方法および回答率について

2019年度4年次在籍者を対象に、入学生を対象に、紙媒体による記名式調査およびWebアンケート（実施方法は各学部により異なる）。回答率は全学で63.6%（1659名 / 2610名）と対前年度比+21.1%と大きな上昇を示した。紙媒体による記名式の4年生満足度アンケートの実施から、紙媒体による記名式調査およびWebアンケートに移行に伴い、回答率の上昇がみられた。

研究・就職に関するイメージの低さ

「立正大学で学んで実際に感じたイメージに該当するもの」の結果をみると、特に「最先端の学問を研究している大学」、「OB・OGが活躍する大学」、「就職に強い大学」の評価が非常に低く、それぞれ3.3%、3.9%、8.1%でありました。今すぐ改善できる内容ではないですが、本学の学生に各教員の研究成果に関する広報活動やOB・OGの活躍に関する情報提供なども必要であると考えられる。その一方、「伝統のある大学」、「教員が優れた大学」の評価は高く、それぞれ46.0%、34.4%を示した。

外国語運用能力、国際的な視野、情報リテラシーは低い評価

「倫理観・仏教精神」、「専門的な知識・技能」、「論理的な思考・分析・表現力」などは高い評価

「大学および所属学部・科の教育を通じた汎用的能力獲得実感（択一回答）」については、「外国語運用能力」、「国際的な視野」、「情報リテラシー」の評価が非常に低く、5点満点中1点が、それぞれ11.3%、6.0%、8.0%でありました。本結果は、在学生の4年間の評価で、真摯に受け止めるべきであります。今すぐ改善できる内容ではないですが、全学的な取り組みとして、改善に取り組むべきであると考えられます。そこで、令和3年度においては、全学教育推進センター運営委員長を中心に「英語力の向上」を目指し、英語教育検討部会を設置し、各学部の担当者との検討に着手しています。さらに、課程修了時の外国語運用能力の到達レベルの明示とそれに対する学修成果の可視化なども必要であると考えられます。

一方、「倫理観・仏教精神」、「専門的な知識・

技能」、「論理的な思考・分析・表現力」などは高い評価を得ています。在学生の4年間の評価であり、4年間の教職員の日々の取り組みがある程度評価されていることであると考えられます。

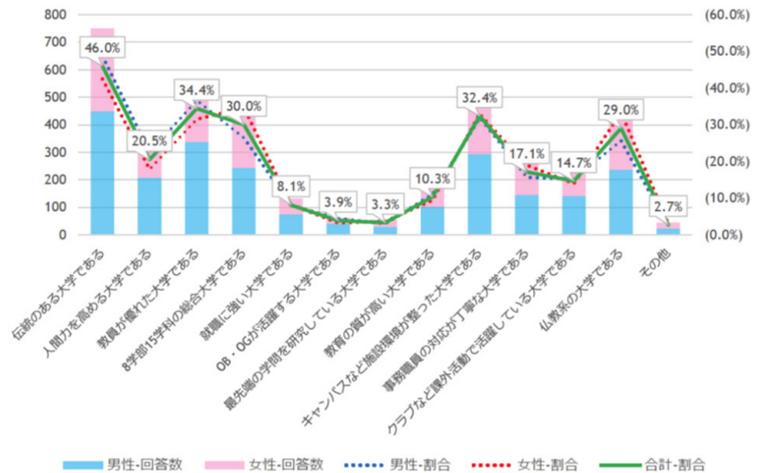


図1. 立正大学で学んで実際に感じたイメージに該当するもの（複数回答）

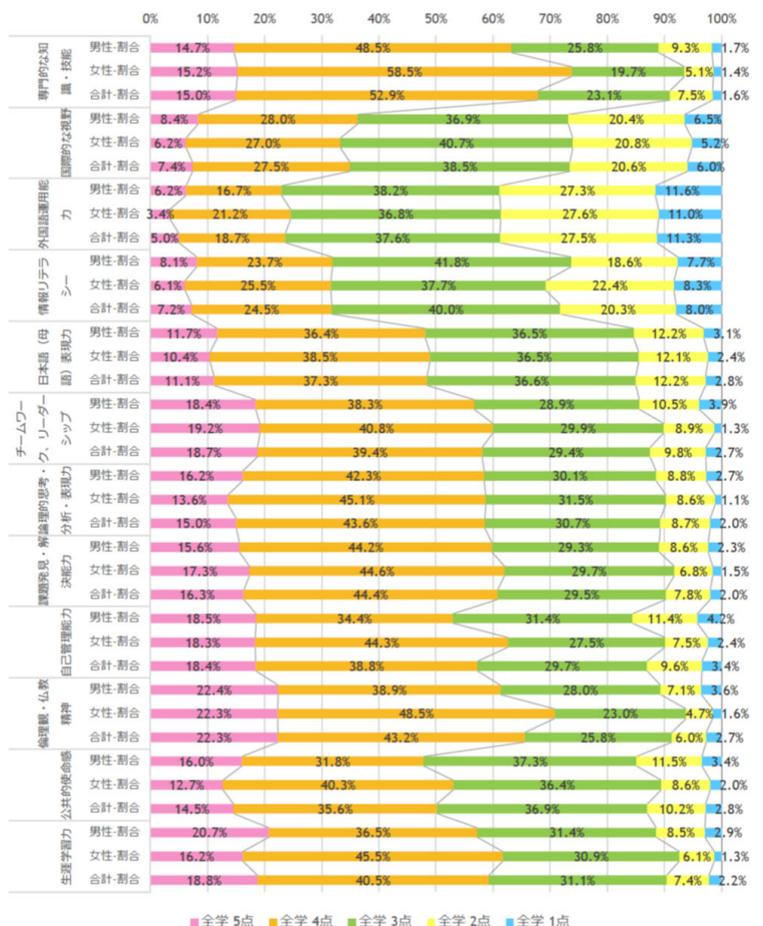


図2. 大学および所属学部・学科の教育を通じた汎用的能力獲得実感（択一回答）

令和2年度(2020年度)新入生アンケート結果報告

新入生アンケートの実施方法および回答率について

2020年度入学生を対象に、新入生アンケートをWeb方式にて実施しました。回答率は全学で54.5% (1320名/2420名)と対前年度比-24.1%と大きな低下を示した。Webアンケートに移行した2017年度は94.2%、2018年度は85.8%、2019年度は78.6%と低下し続けています。ここ2年間の回答率低下は、アンケート実施媒体による問題ではなくその実施方法に課題があることもあり、実施方法に関する更なる工夫や改善が求められます。ただし、2020年度に关しましては、新型コロナウイルス感染症によるオンラインガイダンス実施などの影響も大きいと考えられます。

大学選択基準の傾向に大きな変化はなし 熊谷キャンパスの環境整備も今後の課題

新入生の「受験する大学を選ぶ際に重視したこと」というアンケートの結果をみると、2019年度同様に、第一優先事項は「学びたい学部・学科がある」(76.0%)、それに続く要素として「自宅から通学できること」(54.6%)、「カリキュラムや授業の内容が自分に合っていること」(52.7%)、「交通のアクセスが良いこと」(52.5%)、「学校の周りの環境が良いこと」(33.9%)の順になっています。「学びたい学部・学科がある」、「カリキュラムや授業の内容が自分に合っていること」については、大学の本業でもあり、更なる魅力ある学部やカリキュラム、授業を目指し、教職員の努力や工夫が必要であると思います。

その一方、「自宅から通学できること」、「交通のアクセスが良いこと」、「学校の周りの環境が良いこと」については、日々の教職員の努力より、キャンパスの立地条件そのものを示しています。特に、熊谷キャンパスは品川キャンパスより、交通アクセスや学校の周りの環境は悪く、今後の少子化などを考慮すると、熊谷キャンパスにおける更なる受験者数の減少する可能性も示唆しています(図1)。今後、熊谷キャンパス(3学部)単位の取り組みが重要であると思います。

受験生の情報源はHP、OC、ARCH

本学を受験するのにあたっての参考WEBサイトとしては立正大学のHP、イベントはオープンキャンパス、冊子・広告は立正大学入学案内「ARCH」が圧倒的なトップでありました(図2、図3、図4)。様々なツールや情報が溢れる中でも、まずは、上述したHP、オープンキャンパス、「ARCH」の更なる充実化を図り、本学の魅力をより分かりやすく受験生に伝えることが大きな効果を生み出すことに繋がると考えられます。

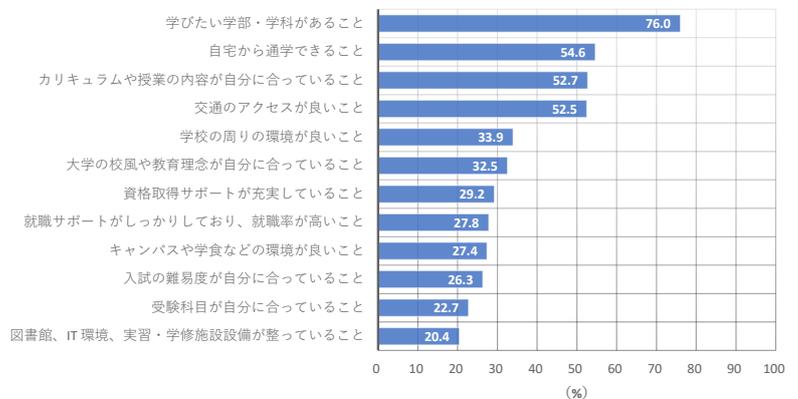


図1. 受験する大学を選ぶ際に重視したこと
(複数回答) (20%以上のみ抜粋)

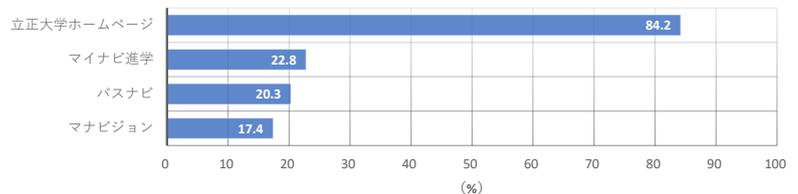


図2. 立正大学を受験するにあたって参考としたWEBサイトはありましたか?
(複数回答) (10%以上のみ抜粋)

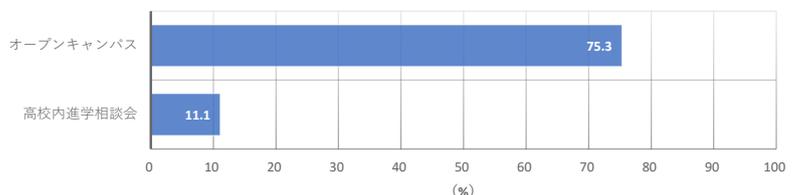


図3. 立正大学を受験するにあたり参加したイベントは?
(複数回答) (10%以上のみ抜粋)

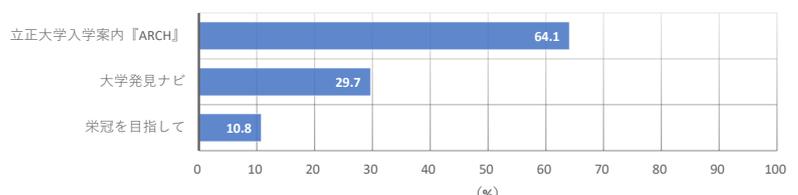


図4. 立正大学を受験するにあたって参考とした冊子・広告は何ですか?
(複数回答) (10%以上のみ抜粋)

令和2年度(2020年度)FD活動報告

〈主なFD活動内容〉

5月	新入生アンケート
7月27日～8月8日	授業改善アンケート(1期)実施
8月24日	新任教職員向け「自己点検・評価入門研修会」開催
10月26日	第1回FD委員会開催 ※学部・大学院合同開催
12月9日	障害学生支援に関するFD研修会開催
12月14日～26日	授業改善アンケート(2期)実施
1月	4年生満足度アンケート
2月	第2回FD委員会開催 ※学部・大学院合同開催
3月24日	全学FD研修開催

授業改善アンケート

本学の授業改善アンケートの回答率はWeb方式移行後に低下傾向にありましたが、令和2年度の第1期調査においては、移行年度以来となる6割の大台を超えました。令和2年度は、コロナ禍の影響でオンライン授業が中心となりましたが、アンケートの実施においては授業形態に合わせた柔軟な対応がとられたことにより、例年以上に回答機会が確保されたものと推察されます。

FD研修会

令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大への対策として、学内のFD研修会を原則オンラインで実施しました。また、障害学生支援に関するFD研修会において「オンライン授業下における合理的配慮」に関する報告がなされたり、全学FD研修会において「オンライン授業の形態を踏まえた授業方法の工夫」が提示される等、コロナ禍に対応したFD活動が展開されました。

2020年度授業改善アンケート実施概要

〈実施期間〉

- 第1期 2020年7月27日～8月8日
- 第2期 2020年12月14日～12月26日

〈対象科目〉

1期は1期科目、2期は2期科目および通年科目の全科目。ただし、受講者数5人未満、ゼミ、卒論、学修の基礎、オムニバス科目、集中科目については、学部が実施の可否を決定。

〈実施方法〉

実施期間の該当科目授業時間中に原則的に実施。スマートフォン等からWebシステム「C-Learning」(以下、「Webシステム」)より回答。

〈備考〉

アンケートの集計結果は「授業アンケート」の報告書に、大学については学部編として、大学院については大学院編として掲載しています。

コロナ禍の今こそ授業改善アンケートの活用を

2020年度は、コロナ禍の影響で急速、第1期全面オンライン授業、第2期原則オンライン授業、対面授業の一部再開の対応となりました。授業の改善点を問うた設問では、対面授業であった前年度と比べ「教員とのコミュニケーションが取りづらい」ことを指摘するコメントが特に増えており、オンライン授業における大きな課題の一つは「学生とのコミュニケーション」にあるといえます。大学として実施される授業改善アンケートは「学生からのフィードバック」を得られる貴重な機会であり、次年度以降も様々な形で継続が見込まれるオンライン授業をより良いものにすべく、活用を促進していきます。

